

冬作バレイショの栽培に関する研究

第1報 品種別生育経過と植付時期の影響

松尾良満・山下修司・*山本平三 (佐賀県畑作試験場・*上場農業改良普及所)

MATSUO, Y., S. YAMASHITA and H. YAMAMOTO: Cultivation of Winter Cropping Potato. 1. Growth Processes and Planting Time on Various Cultivars

東松浦半島沿岸地帯は冬期温暖で無霜に近い地域がかなりあり、その気象的条件を生かした畑作物として冬作のバレイショを採りあげ、その産地形成に取り組んだばかりである。そこで栽培の技術体系を確立する必要から、まず品種と植付時期について現地にて検討を行った。

試験方法

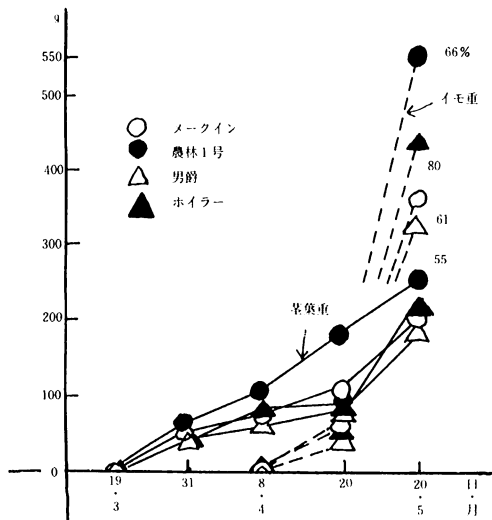
供試品種及び植付時期は、第1表のとおりで種芋は、ハウス内にて浴光催芽を行い、1片40g前後に切断して、種子消毒(バリダシン剤)後植え付けた。

第1表 試験方法

品種別試験	植付時期試験
(供試品種)	植付時期 昭和56年12月18日、28日
メークイン(北海道産)	(8回10日毎) 昭和57年1月8日、18日、28日
男爵(北海道産)	2月8日、18日、28日
農林1号(北海道産)	
ホイラー(長野産)	供試品種 メークイン(北海道産)
耕種概要	植付昭和56年12月28日、植付距離60×25cm(660株/a) 施肥量N16.5P33.0K16.5kg/10a マルチング1月28日 植までは2月8日、2月8日植からは植付直後。マルチング資材厚さ0.03mm幅270cm透明ポリフィルム

結果及び考察

品種別の生育経過は、第1図に示すとおりであり、各品種の地上への発芽は“農林1号”>“ホイラー”>“メークイン”>“男爵”の順となり、2月末に始まり3月中下旬まで順次増加し、植付後60~90日を必要とした。初期生育(4月20日)は、“農林1号”>“メークイン”>“ホイラー”>



第1図 冬作バレイショ1株当たりの莖葉重及びイモ重
※数字はL以上のイモ率(%) (1982)

第2表 冬バレイショ種子調査(1982・12)

品種名	産地 規格	イモ重量					病害(10株発病イモ率%)				
		x	Max	Min.	S.D	C.V	クラア病	エキ病	そうか病	その他	
メークイン	北海道 L	K	131.2	215	99	24.35	18.56	50	45	2.0	0
		R						1.4	1.3	0.5	0
		%						52.7	9.0	1.8	0
"	" M	K	92.7	153	33	20.99	22.64	13.9	2.2	0.4	0
		R						51.0	6.7	1.3	0
		%						12.8	2.0	0.5	0
農林1号	" L	K	126.0	208	60	26.22	20.85	0.5	8.5	0.5	0
		R						0.1	4.9	0.2	0
		%						8.4	1.3	0.9	0
男爵	" M	K	87.8	132	57	17.72	20.18	3.4	0.8	0.2	0
		R						25.2	2.9	1.4	0
		%						8.5	1.4	0.4	0
ホイラー	長野 L	K	190.4	430	95	55.39	29.09	0	11.4	0	3.8
		R						0	8.5	0	1.0
		%									

第3表 冬作バレイショの植付時期の影響(1982)

試験区名 (植付時期)	発芽率		草丈 cm	株当たり イモ重※ g	上イモ率 %
	3月13日	3月31日			
12月18日	45	95	33.0	618	91.6
12月28日	15	88	34.9	554	90.5
1月8日	5	20	23.2	349	77.5
1月18日	20	50	30.3	521	86.9
1月28日	15	70	25.6	495	89.2
2月8日	25	85	30.3	585	84.9
2月18日	0	18	19.1	302	83.2
2月28日	0	40	26.5	440	58.0

※印: 調査月日6月10日

“男爵”の順となり、芋の発育では“農林1号”>“ホイラー”>“メークイン”>“男爵”となり、“農林1号”が最も早生性を示した。

根重、草丈、ストロン数、芋個数においても同様の傾向となり、ストロン長は“メークイン”が他より5倍(16cm)程度長い特色が見られた。全体的な生育経過は、4月上旬から生育は促進され5月下旬までではほぼ完了し、5月20日の収量は、“農林1号”3.6t、“ホイラー”2.9t、“メークイン”2.4t、“男爵”2.1tであり、L級以上は各66%、80%、61%、55%であった。4月20日では400~600kgの収量で、早出しな市場準備と収量を考慮して行うべきであり、品種の選定は市場の好みが大きく、現在は“メークイン”が大部分を占めている。しかし種子導入上の問題があり、今後は短期休眠型の品種も検討する必要があると思われる。

植付時期については、12月中旬~2月初めとかなり幅が広く、早植えしても発芽は3月初めとなり、2月中旬以後は不適当と思われた。植付適期については、気象変動も大きいので、再度検討を要する。